

令和4年度 伊勢市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和5年5月

伊勢市（三重県）

○計画期間：令和3年4月～令和8年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和4年度終了時点（令和5年3月31日）の中心市街地の概況

本市では、第1期伊勢市中心市街地活性化基本計画により徐々に広がってきたにぎわいを、中心市街地全体の更なる活性化へと繋げるため、第2期計画を策定し、43事業に取り組んでおり、令和4年度が2年目となる。

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続いていたが、本市を訪れる観光客数は徐々に回復しており、伊勢神宮（内宮・外宮）参拝者数についても、令和3年の3,827,451人に対して、令和4年は6,037,417人であった。また、「お伊勢さんマラソン」などの一部の事業は、規模を縮小しながら実施することができ、「繋ぐ高柳希望の風事業」のイベントである「第1回北海道フェア」では、AIカメラによる計測で1日あたり平均2,564人の来場があるなど、平常時の生活を取り戻しつつあるといえる。

しかし、歩行者通行量調査において、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった令和3年度より通行量が減少する結果となった。一部の調査地点で地域の中心となる病院が中心市街地活性化区域外に移転したことが、ひとつの要因であると考えられる。

令和5年5月には「伊勢市駅前地区第1種市街地再開発事業（B地区）」の複合施設において、市の福祉拠点施設「伊勢市健康福祉ステーション」がオープンし、事業中のC地区も含め、各施設の利用者や観光客が駅前周辺を回遊するように、引き続き近隣商店街と連携し、人々が自然と集まるようなまちづくりを進めていく。

今後、このような取り組みを実施するとともに、伊勢まちづくり株式会社が中心となって、官民が連携して魅力あるまちづくりを進め、中心市街地の活性化に繋げていく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

（基準日：毎年度1月1日）

| （中心市街地 区域） | 令和2年度 （計画前年度） | 令和3年度 （1年目） | 令和4年度 （2年目） | 令和5年度 （3年目） | 令和6年度 （4年目） | 令和7年度 （5年目） |
|---------------|------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 人口 | 7,323人 | 7,162人 | 7,015人 | | | |
| 人口増減数 | △177人 | △161人 | △147人 | | | |
| 自然増減数 | △93人 | △112人 | △126人 | | | |
| 社会増減数 | △84人 | △49人 | △21人 | | | |
| 転入者数 | 200人 | 191人 | 242人 | | | |

※人口増減数・自然増減数・社会増減数・転入者数については、前年度の基準日から当該年度内の基準日までの1年間の変動数を記載している。

(2)地価

(単位：円/㎡)

| | 令和2年度 (計画前年度) | 令和3年度 (1年目) | 令和4年度 (2年目) | 令和5年度 (3年目) | 令和6年度 (4年目) | 令和7年度 (5年目) |
|--|------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 中心市街地内 商業地域 (一之木2丁目 2280番) | 50,500 | 49,400 | 48,500 | | | |
| 中心市街地内 商業地域 (本町426番 2) | 142,000 | 142,000 | 142,000 | | | |
| 中心市街地隣接 第一種住居地域 (常磐1丁目 1160番) | 49,400 | 48,700 | 48,200 | | | |
| 中心市街地隣接 近隣商業地域 (岩淵1丁目 712番) | 70,500 | 69,600 | 68,900 | | | |

2. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

第2期伊勢市中心市街地活性化基本計画の2年目となった令和4年度も、新型コロナウイルス感染症の影響によって中心市街地での多くのイベントや事業が中止、延期となるなど、活性化に向けて大きな進展が見受けられなかった。しかしながら、商店街では新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも感染対策を徹底した上で開催されたイベントもあり、にぎわい回復の指標には昨年度に導入された歩行者通行量を通年分析するAIカメラが使われるなど、新型コロナウイルス感染症の対策を機に効率化、デジタル化された新たな取り組みが浸透しつつある。

目標指標である「歩行者通行量」については、新型コロナウイルスの影響のほか、一部施設の移転に伴う人流の変動も影響して基準値を下回る結果となった。しかし、第1期伊勢市中心市街地活性化基本計画の主事業であった駅前周辺の「伊勢市駅前地区第一種市街地再開発事業(B地区)」や、本計画の「伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業」、さらに駅前から続く伊勢銀座新道商店街の「しんみち未来創造事業」などの取り組みに進捗が見られることから、今後も駅前から商店街にかけての回遊、延いては中心市街地のにぎわい創出に期待ができる。また、当協議会としては商店街への回遊の誘引だけでなく、滞留を促すような宿泊施設等の開業誘致や、中心市街地における用地、施設の活用についても検討、事業提案する必要があると考える。

一方、目標指標である「中心市街地の新規出店数」は、年平均の目標値11店舗を上回って16店舗となり、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、新規出店を希望する者は多く存在していることが分かる。しかし、この16店舗の内、「商店街空き店舗対策支援事業」による支援を利用した新規出店者が3店舗であったことは、従来の支援制度の課題であると捉えている。また、商店街においては『空店舗はあるが、住居兼店舗の場合においては所有者が店舗として賃貸する意思を持っていない。または物件として他人に貸せる状態にない』などの課題もある。令和4年度では、この課題解決のため関係団体の協議が重ねられ、令和5年度からは空店舗所有者への支援拡充による「貸せる空店舗の創出」に取り組むことで支援実績の増加を図っていく。

今後の目標達成に向けては、新型コロナウイルス感染症の拡大という未曾有の危機を切り抜けてきた民間団体、民間事業者がまちづくりの主体となり、公共的団体が常に寄り添いサポートを行う官民連携の体制が重要である。また、当協議会構成員が継続して密な情報交換を行うことで、各々の課題を整理し、中心市街地活性化の指標を達成すべく、日本人の心のふるさと神宮が御鎮座する町「伊勢」にふさわしい取組を進めていく必要がある。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

| 目標 | 目標指標 | 基準値 | 目標値 | 最新値 | 基準値からの達成状況 | 前回の見通し | 今回の見通し |
|-----------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|----------------------|-------------------|------------|--------|--------|
| 商業の活性化とまちなか回遊性の向上 | 歩行者通行量 | 3,943人 (H30年度) | 4,140人 (R7年度) | 3,288人 (R4年度) | C | ① | ① |
| | 新規出店数 | 50店舗 (H27～R元合計) | 55店舗 (R3～R7合計) | 16店舗 (R4年度) | A | ① | ① |
| | 【参考指標】 中心市街地の新規出店数 | - | - | 106店舗 (R4年度) | - | - | - |
| | 【参考指標】 中心市街地 区域内全体 店舗数 | 1,406店舗 (R2年度) | - | 1,374店舗 (R4年度) | - | - | - |
| 都市機能の強化と活発な地域活動によるまちなか居住の促進 | 中心市街地の 居住人口の 社会増減 | △177人 (H27～R 元合計) | ±0人 (R3～R7 合計) | △20人 (R4年度) | B | ① | ① |
| 観光の取組による中心市街地のにぎわい向上 | 観光関連施設等の利用者数 | 49,337人 (H27～R 元年平均 値) | 53,300人 (R7年) | 28,034人 (R4年) | C | 1 | ① |
| | 【参考指標】 中心市街地 内宿泊施設 の宿泊者数 | 322,900人 (R元年) | - | 312,959人 (R4年) | - | - | - |

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

- ① 目標達成が見込まれる（関連する事業等の進捗状況が順調）
- ② 目標達成が見込まれない（関連する事業等の進捗状況が順調）
- 1 目標達成が見込まれる（関連する事業等の進捗状況が順調でない）
- 2 目標達成が見込まれない（関連する事業等の進捗状況が順調でない）

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者通行量」については、基準値を下回り、令和3年度より減少する結果となった。一部の調査地点で地域の中心となる病院が中心市街地活性化区域外に移転したことが、ひとつの要因であると考えられる。

今後、「伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業」の商業施設利用者や分譲住宅の入居者が駅前周辺を回遊するように、近隣商店街と連携したにぎわい創りを進めていく。さらに、令和5年度から「アクティブ・アート推進事業」などの新規事業の実施により、周辺地域への回遊を図ることで、最終年度である令和7年度末における目標達成は可能であると見込まれる。

「新規出店数」については、目標値（55店舗／5箇年）の年平均である11店舗を上回る結果となった。6件（新規3件、継続3件）の補助実績があった「商店街空き店舗対策支援事業」や、区域内において6件の補助実績があった「創業支援事業」を引き続き実施するとともに、伊勢まちづくり株式会社や商店街と連携して、商店街の魅力を向上していくことで、目標達成は可能であると見込まれる。

「中心市街地の居住人口の社会増減」については、令和4年度は20人減少した。今後、「伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業」による分譲住宅の供給や、「空き家対策事業」、「空家総合事業」、「木造住宅耐震補強等事業」による空家のさらなる利活用を推進することで、目標達成は可能であると見込まれる。

「観光関連施設等の利用者数」については、基準値を下回る結果となった。新型コロナウイルス感染症の影響により、目標指標の「お伊勢さん観光案内人」事業が、一部活動休止になっていたことなどが大きな原因となっている。

しかし、令和3年度と比較すると「観光関連施設等の利用者数」が17,182人増加しており、また、参考指標である「中心市街地内宿泊施設の宿泊者数」も令和3年度から大きく数字を伸ばしていることから、中心市街地を訪れる観光客数は徐々に回復してきている。今後、新型コロナウイルス感染症の影響の収束により、観光客が増加していくと思われることから、関連事業を継続して実施し、観光客を中心市街地に呼び込むことにより、目標達成は可能であると見込まれる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「観光関連施設等の利用者数」

令和3年度フォローアップにおいて、新型コロナウイルス感染症の影響により、関連事業が予定どおり実施できていない状況から、目標達成が見込まれるが関連する事業等の進捗状況が順調でない（1）と評価した。

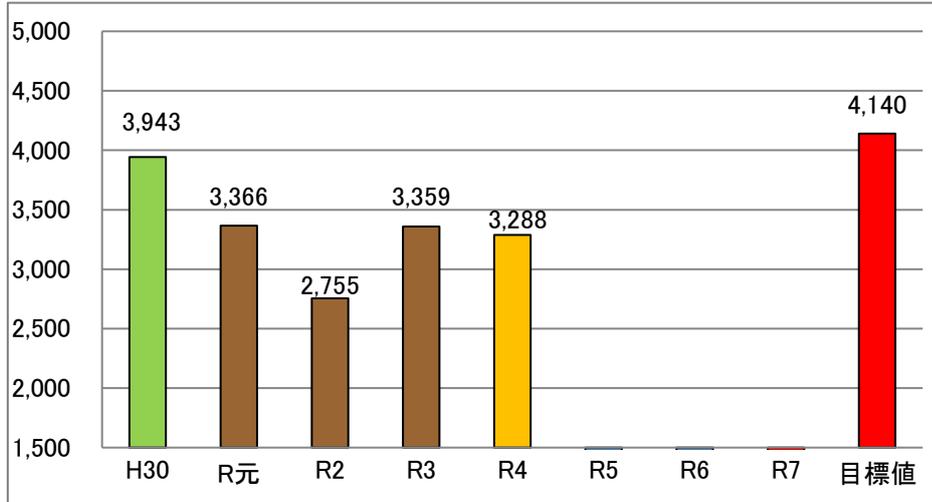
その後、本市を訪れる観光客数が徐々に回復しており、規模を縮小しながら一部の事業を再開できたことから、目標達成が見込まれ関連する事業等の進捗状況が順調である（①）と評価した。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「歩行者通行量」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P76～P83 参照

●調査結果と分析



| 年度 | (人/日) |
|-----|----------------|
| H30 | 3,943 (基準値) |
| R元 | 3,366 |
| R2 | 2,755 |
| R3 | 3,359 |
| R4 | 3,288 (最新値) |
| R7 | 4,140 (目標値) |

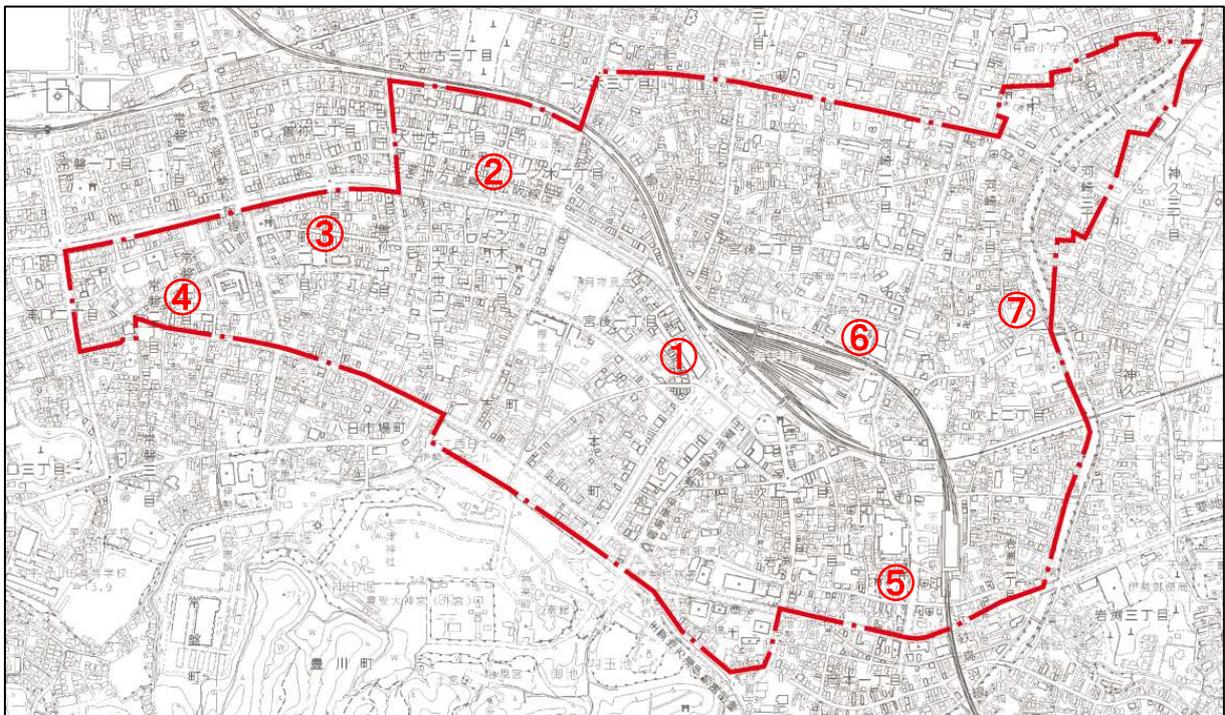
※調査方法：土曜日の9時～18時に中心市街地内の7地点を通過する歩行者及び自転車を計測

※調査月：令和5年3月

※調査主体：伊勢まちづくり株式会社及び伊勢市

※調査対象：中心市街地活性化区域内の商店街に設けた5地点及び伊勢市駅以北の市道2地点の歩行者及び自転車の通行量

図 歩行者通行量の調査地点



| | |
|----------------|-----------|
| ① 伊勢市駅前商店街 中央 | ⑤ 明倫商店街 西 |
| ② 伊勢銀座新道商店街 中央 | ⑥ 市道北口線 |
| ③ 伊勢高柳商店街 中央 | ⑦ 市道外宮二見線 |
| ④ 浦之橋商店街 西 | |

歩行者通行量の調査結果

(単位:人)

| | R2年度 (計画前年度) | R3年度 (1年目) | R4年度 (2年目) | R5年度 (3年目) | R6年度 (4年目) | R7年度 (5年目) |
|---------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| ①伊勢市駅前商店街 中央 | 615 | 770 | 658 | | | |
| ②伊勢銀座新道商店街 中央 | 424 | 498 | 504 | | | |
| ③伊勢高柳商店街 中央 | 541 | 450 | 640 | | | |
| ④浦之橋商店街 西 | 308 | 343 | 280 | | | |
| ⑤明倫商店街 西 | 150 | 265 | 283 | | | |
| ⑥市道北口線 | 433 | 712 | 592 | | | |
| ⑦市道外宮二見線 | 284 | 321 | 331 | | | |
| 合計 | 2,755 | 3,359 | 3,288 | | | |

〈分析内容〉

「歩行者通行量」について、基準値を下回る 3,288 人であり、新型コロナウイルス感染症対策による各商店街におけるイベントの中止や規模縮小の影響等により、伸び悩む結果となった。

各調査地点の特徴として、「④浦之橋商店街 西」では、地域の中心となる病院が中心市街地活性化区域外に移転したことが、歩行者数が減少したひとつの要因であると考えられる。「①伊勢市駅前商店街 中央」では、地元住民だけではなく、観光客の通行があったが、他の調査地点ではほとんどが地元住民の通行であった。駅周辺や観光地を訪れる観光客を中心市街地全体へ誘導させることが今後の課題である。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業（民間事業者）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 令和元年度～令和7年度【実施中】 |
| 事業概要 | 伊勢市駅前地区の再開発事業により、商業・住宅などの都市機能の更新を図る。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和2年度～令和7年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 事業目標値 +230人 令和3年12月に都市再開発法に基づく三重県知事の認可を受け、再開発組合が設立した。 令和5年2月、権利変換計画認可をもって、令和5年2月の補償費を支払った。 |
| 事業の今後について | 令和5年5月の明渡し期日の後、令和5年6月より既存建物を解体し、令和6年1月より新築工事の着工を予定している。 |

②. 宮後1丁目1号線整備事業（伊勢市）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 令和元年～令和7年度【実施中】 |
| 事業概要 | 伊勢市駅を中心とした地域の道路を再整備する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和2年度～令和6年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 事業目標値 +32人 令和2年度に1期工事が完成し、開放的な道路の再整備、人々が交流する広場に休憩施設としてのベンチ設置、周囲の施設等を活かした影絵の投影により、人々が集い憩える空間を確保した。現在は2期工事に向けて関係機関と協議を行っている。 |
| 事業の今後について | 再開発事業者等関係機関と調整を図り、令和6年度から2期工事を行う。 |

③. 宮後浦口線整備事業（伊勢市）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 令和3年度～令和5年度【実施中】 |
| 事業概要 | 伊勢銀座新道商店街の通りを景観に配慮した舗装に整備する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和3年～令和6年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 事業目標値 +40人 令和3年度に道路整備に伴う測量・設計を行い、令和4年度から他工事や商店街等と調整し舗装工事に着手している。 |
| 事業の今後について | 引き続き、他工事及び商店街等との調整を行い、令和5年度の事業完成に向け工事を行う。 |

④. 公共交通機関とのタイアップキャンペーン事業（伊勢市）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成26年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 公共交通機関とタイアップし、旅行商品と連動させたポスター等を作成し、主要駅のポスター枠やデジタルサイネージ等に掲出する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 東海旅客鉄道とのタイアップによる東京駅等でのポスター展開について、上期（4月～9月）は4月～6月に、下期（10月～3月）は10月から1月末まで掲出した。また、新型コロナウイルス感染症の影響があったが、旅行需要が低下していた令和3年度に比べ、全国旅行支援等の影響もあり、連動する旅行商品については、上期2,437件、下期5,942件の販売実績があり、市内において特典のクーポン引換実績も、上期762件、下期2,619件と増加している。 |
| 事業の今後について | 令和5年度上期（4月～9月）事業は調整済みで、継続して事業を推進していくとともに、下期（10月～3月）についても事業継続に向け調整する予定である。 |

⑤. 着地型旅行商品造成事業（伊勢市）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成 17 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 事業企画、旅行商品造成及びその販売促進を行う。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、旅行需要が低下していたが、それも徐々に回復傾向となっており、個人旅行と比較して団体旅行の需要も高まっている。また、全国旅行支援等の影響もあり、旅行商品の販売実績も 18,658 件（3 月末現在）と、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の販売実績に近づいている。 |
| 事業の今後について | 令和 5 年度事業は調整済みのため、継続して事業を推進するとともに、クーポン内容のブラッシュアップや SNS を活用した販売促進も検討する。 |

⑥. 文化資源保存活用事業（伊勢市）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成 19 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 「伊勢市全市博物館構想」に基づき、市全体を大きな博物館としてとらえ、全域に広がる博物館や自然・文化資産などを相互に連携させて有効活用を図る。また、整備予定の郷土資料館を拠点として、博物館施設の企画展示や催し物情報、季節に応じた見どころなどを情報発信する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 「伊勢まるごと博物館スタンプラリー」は市内外の博物館施設等にパンフレットを設置し、参加を案内している。 「夏休み博物館イベント」は複数の施設で子ども対象の企画を催し、500 人を超える参加があった。 |
| 事業の今後について | 各博物館施設において、市民等に関心の高い催しの企画や、子どもの施設利用を促す企画等、来館者の増加につながる取組を進めていく。 |

⑦. 商店街等振興対策事業（伊勢市、伊勢まちづくり株式会社）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 令和元年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 消費者に魅力ある商店街づくりのために行う事業に対して補助をする。また、中心市街地において商店街等が行うイベント等を、伊勢まちづくり株式会社が情報発信する。さらに、商店街等における歩行者通行量調査について、AI カメラを活用した実証実験を行い、得られたデータを分析活用するとともに、その効果を検証する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和2年度～令和6年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、商店街等においてイベントが一部開催され、補助事業の活用が3件あった。 また、伊勢まちづくり株式会社における情報発信事業では、各商店街等のイベントに関してインターネット広告、SNS 広告など7件の発信を行った。 AI カメラ事業については、新道商店街にてイベント時に店舗来店客数のカウントを行い、歩行者通行量とのデータと合わせて相関関係などを調査した。 |
| 事業の今後について | 新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着けば商店街補助事業の活用は増加すると見込まれ、それと共に情報発信事業の需要も伸びてくると考えられる。 また、AI カメラ事業のデータ分析はデータが順調に蓄積されており、コロナ後のイベントなどに有効活用していきたい。 |

⑧. まちなか案内事業（伊勢商工会議所ほか）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成 28 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | お伊勢さん観光案内人(商工会議所事業)、お伊勢さんまち歩きクーポン(まちづくり会社)等、地元住民から観光客まで、まちなかを案内するサービスを提供する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 「お伊勢さん観光案内人」事業は、一部活動を制限（原則として内宮のみ）して再開しているが、伊勢を訪れる観光客数は回復基調にあるもののまだまだ少なく、利用客数は両宮案内を行っていた、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前と比べて 50%以下に落ち込んでいる。また、デジタル化された「お伊勢さんまち歩きクーポン」は、三重県のキャンペーンによって利用客数は一時増加したものの、紙媒体であった令和 3 年度のクーポンと比べると約 30%の利用にとどまった。 |
| 事業の今後について | 新型コロナウイルスへの社会の対応の変化に応じ、「お伊勢さん観光案内人」事業の活動を段階的に再開していく。また、「お伊勢さんまち歩きクーポン」については、観光客のみを対象とした商品からの脱却を図るため、対象店舗の拡大を計画している。 |

⑨. 河崎まちなみ魅力創出事業（伊勢河崎まちづくり衆ほか）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成 28 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | かつて問屋街として栄えた河崎地区にて、登録有形文化財の伊勢河崎商人館の活用(だいどこ市、商人市ほか)や、勢田川を活用した事業の実施、さらに地区内の歴史的空町家・空蔵等の活用を促進する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、中止をしていた「だいどこ市」、「商人市」などのイベントを再開したほか、地区内の歴史的空町家・空蔵等を活用して御師文化を発信するフォーラム等を開催した。また、民間事業者とも連携し、空き町家、空き蔵の活用を検討中である。 |
| 事業の今後について | 空き町家、空き蔵を活用した事業の構築に向けて、民間事業者や地区内の所有者と共に協議を重ねていく。 |

⑩. 伊勢市駅前商店街活性化事業（伊勢市駅前商店街振興組合）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成 29 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 組合活動と商店街地区活性化のため、組合の既存ビジョン・プランの更新、市街地再開発事業の事業者との連携を継続することで、伊勢市駅前の新たなにぎわいの創出を図る。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 新型コロナウイルス感染症拡大によって、勉強会やビジョンのブラッシュアップなど人が集う事業は開催できない状況が続いていたが、本年度は専門家を呼び、個店の経営に役立つ取り組みなどの勉強会の開催や、ビジョン策定のための会議を開催することができた。 イベントでは伊勢まつりの際に、人の集中を避けるため、希望する商店街内の飲食店の店先に屋外用テーブル等を設置するなど感染防止対策を徹底し、新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも開催ができる方法に取り組んだ。 また、課題であった西町通り商店街アーケードの撤去も令和 5 年 3 月に完了した。 |
| 事業の今後について | 組織体制強化ビジョンを策定し、実施に向けて取り組んでいく。 |

⑪. しんみち未来創造事業（伊勢銀座新道商店街振興組合）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成 29 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 商店街の将来像を定めた既存ビジョンの更新、またこれに基づいた組合事業を継続し、複数ある空き店舗の削減、来客数の増加を目指し、商店街の魅力向上を図る。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 令和 4 年 3 月に完成したアーケード内の下水道、路面整備計画に則り、現在、アーケード内に部分通行規制をかけながら、路面整備事業（下水管工事事業）を実行中である。 また、12 月には、宇治山田商業高校「地域活性化プロジェクト」の授業の一環で、「山商×しんみちフェスタ」を開催すると共に、国の施策「がんばろう！商店街事業」の採択を受けて第 3 回目となる「しんみちイルミネーションプロムナード」や、しんみち商店街のMAP作成、及びホームページ作成に取り組んだ。 |
| 事業の今後について | 令和 6 年 3 月完成予定の下水道、路面整備計画に則り事業を進めるほか、例年 7 月に開催していた「伊勢の夜祭」を 4 年ぶりに開催し、冬のイルミネーションイベントを継続して開催するなど、新道商店街として、集客の強化及び、観光客の取り込みに向けて展開していく。 |

⑫. 繋ぐ高柳希望の風事業（伊勢高柳商店街振興組合）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成 29 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 平成 30 年に発生した商店街中心部の火災事故跡地である被災空地の利活用を主として作成した商店街ビジョンを基に、被災空地活用の事業検討、減少する組合員数、増える空き店舗等の課題へ取組み、100 年以上の歴史をもつ商店街を次世紀へと繋げる。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 商店街に賑わいを生み出すための多種多様なイベント開催を見送ってきたが、11 月に伊勢やまだ大学と立命館大学食マネジメント学部高田ゼミのイベント「share de 高柳」や「第 1 回北海道フェア」を開催し、大勢の人でにぎわった。特に「第 1 回北海道フェア」では 5 日間で延べ 12,818 人の歩行者通行量（前週の 5 日間は 3,258 人）が計測された。また、一過性のイベントで終わらないよう商店街内に「北海道屋台村」をオープンさせて、継続した集客を行っている。 |
| 事業の今後について | 新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見送っていたイベントを成功させたことで、夏の風物詩である「高柳の夜店」を 3 年ぶりに再開させることを計画している。また、「北海道フェア」についても次年度以降も継続して行っていく予定である。 |

⑬. 空家対策事業（伊勢市）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 令和元年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 移住者等を対象とした空家の活用促進を通じて、空家の再利用と移住者等の定住による人口増を図る。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和 2 年度～令和 6 年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 本年度は、空家バンク制度について、周知啓発に取り組み、41 件の空家が新規物件登録され、このうち、中心市街地活性化区域内の新規物件登録は 1 件であった。 また、中心市街地活性化区域内の河崎地区において、試験的に、空家として市が把握している物件 158 件の現地確認を行い、ポスト等が確認できた 65 件に、空家バンク登録を促すチラシを投函し、広報周知の強化を実施した。 |
| 事業の今後について | 試験的に河崎地区で実施した空家バンク登録の促進について、所有者にチラシを送付し、その効果も見極めながら、中心市街地活性化区域内の他地区においても実施を検討するとともに、空家バンク・空家リフォーム補助の広報周知の強化に努めることにより、空家所有者の利活用に関する意識を向上し、空家の再利用の促進を図っていく。 |

⑭. 空家総合事業（伊勢市）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成 29 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 空家の適正管理の周知、実態調査、危険空家の除却推進等、計画的な空家対策を推進する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 空き家対策総合支援事業（国土交通省）（令和 2 年度～） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 本年度は、第 2 期伊勢市空家等対策計画に基づき、空家の適正管理の啓発について、固定資産税納税通知書約 6 万通へのチラシ同封、及び被保険者死亡による保険料の変更通知である後期高齢者医療保険料額決定納入通知書へのチラシ同封を行うなど、空家対応を促すよう広報周知を実施した。また、危険度が高いと判断された物件から所有者の調査を実施し、管理依頼を行っており、老朽化した危険な不良空家 4 件（うち中心市街地活性化区域内は 1 件）に対し除却補助を実施するなど、周辺地域の居住環境の向上に寄与することができた。 |
| 事業の今後について | 空家法及び第 2 期伊勢市空家等対策計画に基づき、管理不全空家の所有者に管理依頼を実施し改善を求めるとともに、老朽化した危険な空家について早期除却をより促進することで居住環境の向上を図っていく。 |

⑮. まちなか移住創業促進事業（伊勢市中心市街地活性化協議会）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成 28 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 伊勢市・商工会議所・まちづくり会社等の関係機関が連携し、主に市外、県外からの移住希望者を対象に、創業、就業、子育て支援等施策の PR や企画の検討、実施を行う。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 伊勢市・商工会議所・まちづくり会社とともに、以下の事業について情報共有・意見交換を行った。 ○市が制作する移住 PR 動画（R4 年度：1 本制作） ○市が参加する大都市圏での移住相談セミナー（R4 年度：4 回参加） ○空き家バンク制度 ○市内企業におけるインターン制度 ○地元社会人と皇学館大学学生の交流会（産学連携） ○創業・移転促進補助金制度 ○地域おこし協力隊制度 |
| 事業の今後について | 月 1 回の頻度で、伊勢市、伊勢商工会議所、伊勢まちづくり株式会社による移住創業促進会議の実施継続するほか、連携して、PR や企画の検討等も継続していく。 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

ハード事業は順調に進捗しており、ソフト事業も令和3年度に中止となったイベントが再開されるなど、平常時の生活を取り戻しつつある。しかしながら、令和3年度よりも歩行者が減少し、基準値を下回る結果となった。

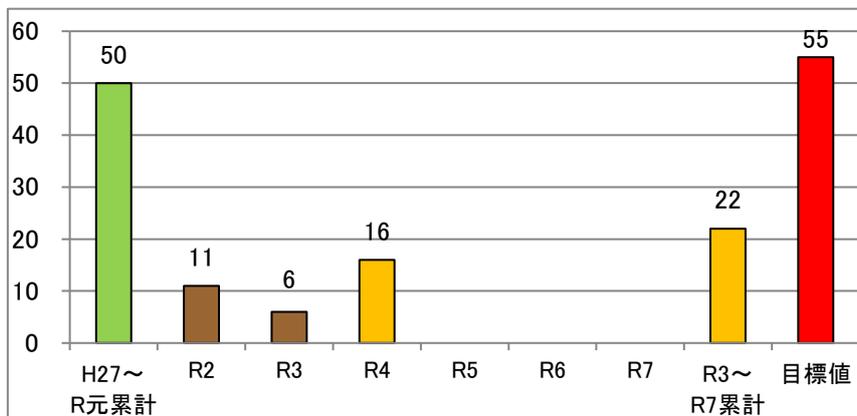
今後、「伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業」による複合施設の整備、商店街の道路整備、各商店街の取組によって、商店街の魅力を向上させ、中心市街地の回遊を図ることで、最終年度である令和7年度末における目標達成は可能であると見込まれる。

また、一部の商店街では、AIカメラ事業によって蓄積された歩行者の通行量や性別、年代とイベント時の店舗来客数などの相関関係を調査した。この調査結果をイベントなどの活用につなげて、集客の強化を目指していく。

(2) 「新規出店数」 (目標の達成状況【 A 】)

※目標設定の考え方は認定基本計画 P83～P84 参照

●調査結果と分析



| 年度 | (店舗) |
|--------|-------------|
| H26～R元 | 50 (基準値) |
| R2 | 11 |
| R3 | 6 |
| R4 | 16 (最新値) |
| R3～R7 | 22 (累計) |
| R3～R7 | 55 (目標値) |

※調査方法：現地確認及び商店街振興組合へ聞き取り

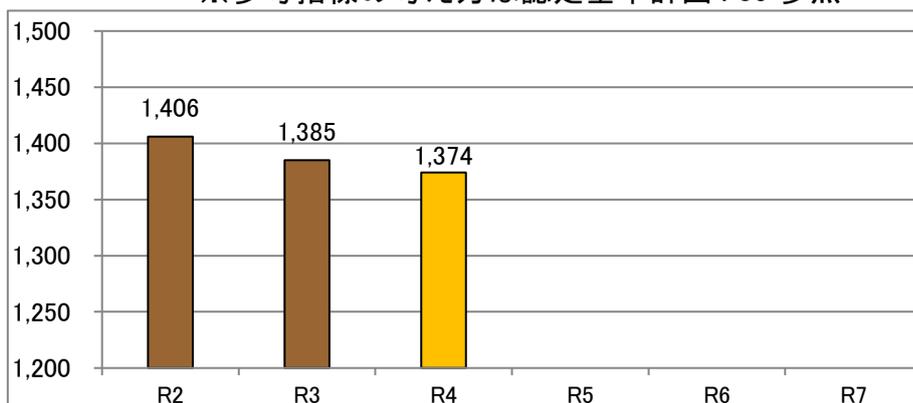
※調査月：令和5年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地活性化区域内の5つの商店街

【参考指標】 中心市街地活性化区域内全体店舗数

※参考指標の考え方は認定基本計画 P85 参照



| 年度 | (店舗) |
|----|-------|
| R2 | 1,406 |
| R3 | 1,385 |
| R4 | 1,374 |

※調査方法：現地確認

※調査月：令和5年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地活性化区域

〈分析内容〉

中心市街地活性化区域内の5つの商店街における新規出店数は、目標値（55 店舗／5 箇年）の年平均である 11 店舗を上回る 16 店舗となり、区域内全体の新規出店数は 106 店舗となった。また、区域内全体の店舗数については 1,374 店舗となり、令和3年度より 11 店舗減少した。

店舗数減少の原因は、新型コロナウイルス感染症の影響による経営状況の悪化や、後継者不足による閉店が考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業【再掲】（民間事業者）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 令和元年度～令和7年度【実施中】 |
| 事業概要 | 伊勢市駅前地区の再開発事業により、商業・住宅などの都市機能の更新を図る。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和2年度～令和7年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 事業目標値 3店舗 令和3年12月に都市再開発法に基づく三重県知事の認可を受け、再開発組合が設立した。 令和5年2月、権利変換計画認可をもって、令和5年2月の補償費を支払った。 |
| 事業の今後について | 令和5年5月の明渡し期日の後、令和5年6月より既存建物を解体し、令和6年1月より新築工事の着工を予定している。 |

②. 創業支援事業（伊勢市）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成29年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 市内での創業や第二創業、市外から事業所移転を行う者にかかる創業・移転に必要となる経費の一部を補助する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 事業目標値 +15店舗 創業・移転促進補助金について、30件（区域内6件、区域外24件）の交付を決定しており、前年度並みのペースで活用が進んでいる。 |
| 事業の今後について | 引き続き制度のPRを行うとともに、創業予定地を検討している方々に対し、中心市街地内への出店を促進する。 |

③. 商店街空き店舗対策支援事業（伊勢市、伊勢まちづくり株式会社）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成 27 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 商店街等が区域の不足業種やニーズに敵う業種を空き店舗に誘致する事業、空き店舗を市民に開放し、ギャラリー等として活用する事業に対して、まちづくり会社が補助をする。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 事業目標値 +30 店舗 年平均 6 店舗を想定する目標とし、本年度は 4 つの商店街等に対し、計 6 件の出店（継続 3、新規 3）に関する補助を行った。 |
| 事業の今後について | 引き続き制度の PR を行うとともに、各商店街などとの協調により、空き店舗への出店誘致に努めるほか、補助対象の拡充によってリフォームなどの整備支援についても取り組んでいく。 |

④. 商店街等振興対策事業【再掲】（伊勢市、伊勢まちづくり株式会社）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 令和元年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 消費者に魅力ある商店街づくりのために行う事業に対して補助をする。また、中心市街地において商店街等が行うイベント等を、伊勢まちづくり株式会社が情報発信する。さらに、商店街等における歩行者通行量調査について、AI カメラを活用した実証実験を行い、得られたデータを分析活用するとともに、その効果を検証する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 都市構造再編集集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和 2 年度～令和 6 年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、商店街等においてイベントが一部開催され、補助事業の活用が 3 件あった。 また、伊勢まちづくり株式会社における情報発信事業では、各商店街等のイベントに関してインターネット広告、SNS 広告など 7 件の発信を行った。 AI カメラ事業については、新道商店街にてイベント時に店舗来店客数のカウントを行い、歩行者通行量とのデータと合わせて相関関係などを調査した。 |
| 事業の今後について | 新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着けば商店街補助事業の活用は増加すると見込まれ、それと共に情報発信事業の需要も伸びてくると考えられる。 また、AI カメラ事業のデータ分析はデータが順調に蓄積されており、コロナ後のイベントなどに有効活用していきたい。 |

⑤. 商業魅力アップ支援事業（伊勢市）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成 27 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 地域住民や観光客のニーズに応えた商業環境の整備やにぎわいの創出に新たに取り組む商業団体等に対して、事業費の一部を補助する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 市内の団体に対し、計 4 件の補助（区域内 3 件、区域外 1 件）を行った。 問い合わせ件数が、令和 3 年度の 1 件から 6 件に増加したことから、新型コロナウイルスの影響により鈍化していた活動が活発化してきたものと考えられる。 |
| 事業の今後について | 市内の経済や団体の動向を注視して、補助対象の見直しについて検討していく。 |

⑥. 伊勢市駅前商店街活性化事業【再掲】（伊勢市駅前商店街振興組合）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成 29 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 組合活動と商店街地区活性化のため、組合の既存ビジョン・プランの更新、市街地再開発事業の事業者との連携を継続することで、伊勢市駅前の新たなにぎわいの創出を図る。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 新型コロナウイルス感染症拡大によって、勉強会やビジョンのブラッシュアップなど人が集う事業は開催できない状況が続いていたが、本年度は専門家を呼び、個店の経営に役立つ取り組みなどの勉強会の開催や、ビジョン策定のための会議を開催することができた。 イベントでは伊勢まつりの際に、人の集中を避けるため、希望する商店街内の飲食店の店先に屋外用テーブル等を設置するなど感染防止対策を徹底し、新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも開催ができる方法に取り組んだ。 また、課題であった西町通り商店街アーケードの撤去も令和 5 年 3 月に完了した。 |
| 事業の今後について | 組織体制強化ビジョン策定次第、実施に向けて取り組んでいく。 |

⑦. しんみち未来創造事業【再掲】（伊勢銀座新道商店街振興組合）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成 29 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 商店街の将来像を定めた既存ビジョンの更新、またこれに基づいた組合事業を継続し、複数ある空き店舗の削減、来客数の増加を目指し、商店街の魅力向上を図る。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 令和 4 年 3 月に完成したアーケード内の下水道、路面整備計画に則り、現在、アーケード内に部分通行規制をかけながら、路面整備事業（下水管工事事業）を実行中である。 また、12 月には、宇治山田商業高校「地域活性化プロジェクト」の授業の一環で、「山商×しんみちフェスタ」を開催すると共に、国の施策「がんばろう！商店街事業」の採択を受けて第 3 回目となる「しんみちイルミネーションプロムナード」や、しんみち商店街のMAP作成、及びホームページ作成に取り組んだ。 |
| 事業の今後について | 令和 6 年 3 月完成予定の下水道、路面整備計画に則り事業を進めるほか、例年 7 月に開催していた「伊勢の夜祭」を 4 年ぶりに開催し、冬のイルミネーションイベントを継続して開催するなど、新道商店街として、集客の強化及び、観光客の取り込みに向けて展開していく。 |

⑧. 繋ぐ高柳希望の風事業【再掲】（伊勢高柳商店街振興組合）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成 29 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 平成 30 年に発生した商店街中心部の火災事故跡地である被災空地の利活用を主として作成した商店街ビジョンを基に、被災空地活用の事業検討、減少する組合員数、増える空き店舗等の課題へ取り組み、100 年以上の歴史をもつ商店街を次世紀へと繋げる。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 商店街に賑わいを生み出すための多種多様なイベント開催を見送ってきたが、11 月に伊勢やまだ大学と立命館大学食マネジメント学部高田ゼミのイベント「share de 高柳」や「第 1 回北海道フェア」を開催し、大勢の人でにぎわった。特に「第 1 回北海道フェア」では 5 日間で延べ 12,818 人の歩行者通行量（前週の 5 日間は 3,258 人）が計測された。また、一過性のイベントで終わらないよう商店街内に「北海道屋台村」をオープンさせて、継続した集客を行っている。 |
| 事業の今後について | 新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見送っていたイベントを成功させたことで、夏の風物詩である「高柳の夜店」を 3 年ぶりに再開させることを計画している。また、「北海道フェア」についても次年度以降も継続して行っていく予定である。 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和4年度は、各商店街が高等学校や大学などと連携してイベントを実施し、新規出店数が16店舗となり、目標値を上回る結果となった。「商店街空き店舗対策支援事業」などの関連事業を継続して実施していくとともに、補助対象の拡充など、支援策の改善を進めることで、店が立ち並ぶ活気のある魅力的な商店街を目指し、更なる新規出店に繋げる。

（3）「中心市街地の居住人口の社会増減」（目標の達成状況【 B 】）

※目標設定の考え方認定基本計画 P85～P86 参照

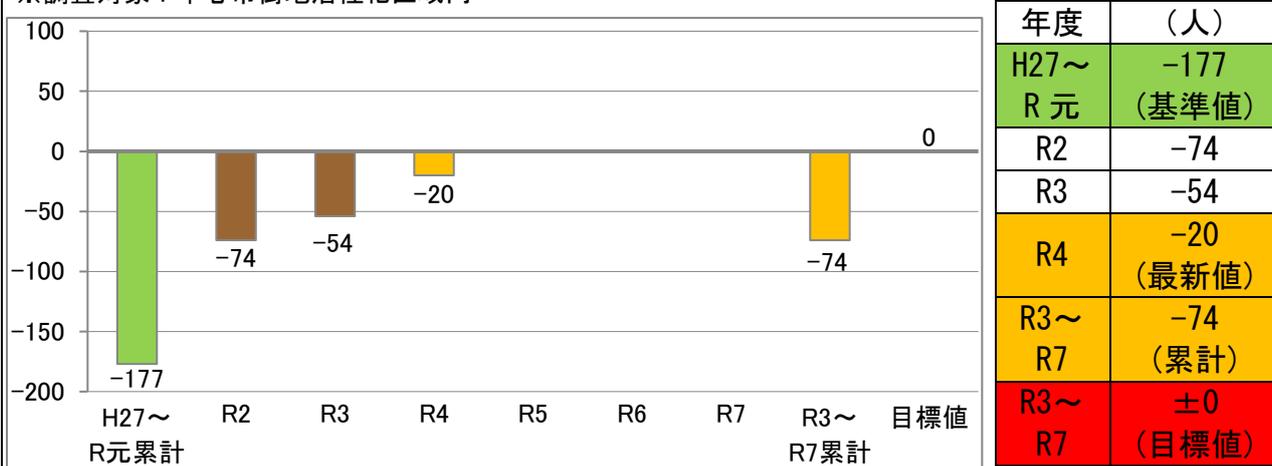
●調査結果と分析

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：令和4年4月～令和5年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地活性化区域内



〈分析内容〉

中心市街地の居住人口の社会増減について、20人減少した。令和3年度における54人の減少から大きく改善する結果となった。伊勢市駅前地区第一種市街地再開発事業（B地区）の複合施設における賃貸住宅が令和4年3月から供用開始したことが、ひとつの要因であると考えられる。市外から中心市街地への転入、中心市街地から市外への転出、これらの合計が9人の減少となっており、令和3年度における53人の減少から改善することとなった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業【再掲】（民間事業者）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 令和元年度～令和7年度【実施中】 |
| 事業概要 | 伊勢市駅前地区の再開発事業により、商業・住宅などの都市機能の更新を図る。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和2年度～令和7年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 事業目標値 +140人 令和3年12月に都市再開発法に基づく三重県知事の認可を受け、再開発組合が設立した。 令和5年2月、権利変換計画認可をもって、令和5年2月の補償費を支払った。 |
| 事業の今後について | 令和5年5月の明渡し期日の後、令和5年6月より既存建物を解体し、令和6年1月より新築工事の着工を予定している。 |

②. 空家対策事業【再掲】（伊勢市）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 令和元年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 移住者等を対象とした空家の活用促進を通じて、空家の再利用と移住者等の定住による人口増を図る。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和2年度～令和6年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 本年度は、空家バンク制度について、周知啓発に取り組み、41件の空家が新規物件登録され、このうち、中心市街地活性化区域内の新規物件登録は1件であった。 また、中心市街地活性化区域内の河崎地区において、試験的に、空家として市が把握している物件158件の現地確認を行い、ポスト等が確認できた65件に、空家バンク登録を促すチラシを投函し、広報周知の強化を実施した。 |
| 事業の今後について | 試験的に河崎地区で実施した空家バンク登録の促進について、所有者にチラシを送付し、その効果も見極めながら、中心市街地活性化区域内の他地区においても実施を検討するとともに、空家バンク・空家リフォーム補助の広報周知の強化に努めることにより、空家所有者の利活用に関する意識を向上し、空家の再利用の促進を図っていく。 |

③. 空家総合事業【再掲】（伊勢市）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成29年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 空家の適正管理の周知、実態調査、危険空家の除却推進等、計画的な空家対策を推進する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 空き家対策総合支援事業（国土交通省）（令和2年度～） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 本年度は、第2期伊勢市空家等対策計画に基づき、空家の適正管理の啓発について、固定資産税納税通知書約6万通へのチラシ同封、及び被保険者死亡による保険料の変更通知である後期高齢者医療保険料額決定納入通知書へのチラシ同封を行うなど、空家対応を促すよう広報周知を実施した。また、危険度が高いと判断された物件から所有者の調査を実施し、管理依頼を行っており、老朽化した危険な不良空家4件（うち中心市街地活性化区域内は1件）に対し除却補助を実施するなど、周辺地域の居住環境の向上に寄与することができた。 |
| 事業の今後について | 空家法及び第2期伊勢市空家等対策計画に基づき、管理不全空家の所有者に管理依頼を実施し改善を求めるとともに、老朽化した危険な空家について早期除却をより促進することで居住環境の向上を図っていく。 |

④. 木造住宅耐震補強等事業（伊勢市）

| | |
|------------------|---|
| 事業実施期間 | 平成 21 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 木造住宅の居住安全性の確保あるいは除却を通じて、まちなかの居住環境の向上に寄与する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 防災・安全交付金（住宅・建築物安全ストック形成事業）（国土交通省）（平成 28 年度～） |
| お事業目標値・最新値及び進捗状況 | <p>本年度の補助金申込件数は、以下のとおりとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木造住宅無料耐震診断 区域内 29 件、区域外 138 件 ・耐震補強工事補助金 区域内 1 件、区域外 3 件 ・空家除却補助金 区域内 23 件、区域外 93 件 <p>耐震性のない木造住宅の耐震改修及び空家の除却工事が促進されたことにより、地域の安全性の向上に繋がった。</p> |
| 事業の今後について | 耐震診断を受けた木造住宅のうち、耐震改修工事や空家除却工事が未実施の住宅について、個別に補助制度の案内を行うことにより、耐震対策を促進する。 |

⑤. まちなか移住創業促進事業【再掲】（伊勢市中心市街地活性化協議会）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成 28 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 伊勢市・商工会議所・まちづくり会社等の関係機関が連携し、主に市外、県外からの移住希望者を対象に、創業、就業、子育て支援等施策の PR や企画の検討、実施を行う。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | <p>伊勢市・商工会議所・まちづくり会社とともに、以下の事業について情報共有・意見交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市が制作する移住 PR 動画（R4 年度：1 本制作） ○市が参加する大都市圏での移住相談セミナー（R4 年度：4 回参加） ○空き家バンク制度 ○市内企業におけるインターン制度 ○地元社会人と皇学館大学学生の交流会（産学連携） ○創業・移転促進補助金制度 ○地域おこし協力隊制度 |
| 事業の今後について | 月 1 回の頻度で、伊勢市、伊勢商工会議所、伊勢まちづくり株式会社による移住創業促進会議の実施継続するほか、連携して、PR や企画の検討等も継続していく。 |

⑥. 店舗新築・住宅等リフォーム促進事業（伊勢市）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成 27 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 住宅や店舗のリフォーム・増改築及び店舗の新築を行う場合に、その工事費用の一部を補助する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、住宅関連産業の景気改善が不透明であることから増額の予算措置を行った。本事業請求時のアンケートによれば、本事業がリフォーム・増改築を行うきっかけと回答した方が毎年度 60%以上であることから、住宅改修等の意識高揚に繋がっていると考えられ、また、当該補助金制度を知るきっかけが施工業者の紹介と回答した方が毎年度 45%以上であることから、市内住宅関連産業の振興に寄与していると考えられる。</p> <p>【令和 4 年度】※令和 5 年 1 月 31 日時点 予算額 2,700 万円（当初予算 1,800 万円） 申請件数 市全体：281 件、中心市街地活性化区域内：22 件</p> <p>【令和 3 年度】 予算額 2,700 万円（当初予算 1,800 万円） 交付件数 市全体：278 件、中心市街地活性化区域内：31 件</p> |
| 事業の今後について | 令和 5 年度については、事業の見直しを行い、住宅政策課と商工労政課が連携して「住宅・空家リフォーム促進事業」として取り組む。住宅政策課が実施する「空家リフォーム促進事業」では、空家のリフォームを補助対象とし、商工労政課が実施する「住宅リフォーム促進事業」では、自らが居住する住宅を補助対象とし、空家の活用・流通並びに住宅の機能保持、市内の住宅関連産業の振興を促進し、地域経済の活性化を図る。 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和 4 年度における、中心市街地の居住人口の社会増減について、主要な事業は概ね順調に進捗しているものの、令和 3 年度に引き続き減少する結果となった。中心市街地活性化区域内での空家バンク新規登録件数が 1 件に留まるなど、区域内での制度の活用が少なかったことが、ひとつの要因であると考えられる。

今後、目標達成に向け、居住人口の社会増に繋がる「伊勢市駅前 C 地区第一種市街地再開発事業」について、事業の推進に対し支援を行い、分譲住宅の供給を行うことで、居住の促進を図る。

また、「木造住宅耐震補強等事業」について、区域内で 53 件の補助申請があり、「空家総合事業」については、老朽化した危険な不良空家の除去補助を行うなど、安全な居住環境の構築を進めることができた。引き続き、空家の適正管理の周知や実態調査を実施していくとともに、空家物件の登録が進むように事業に取り組んでいく。

(4) 「観光関連施設等の利用者数」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P87~P89 参照

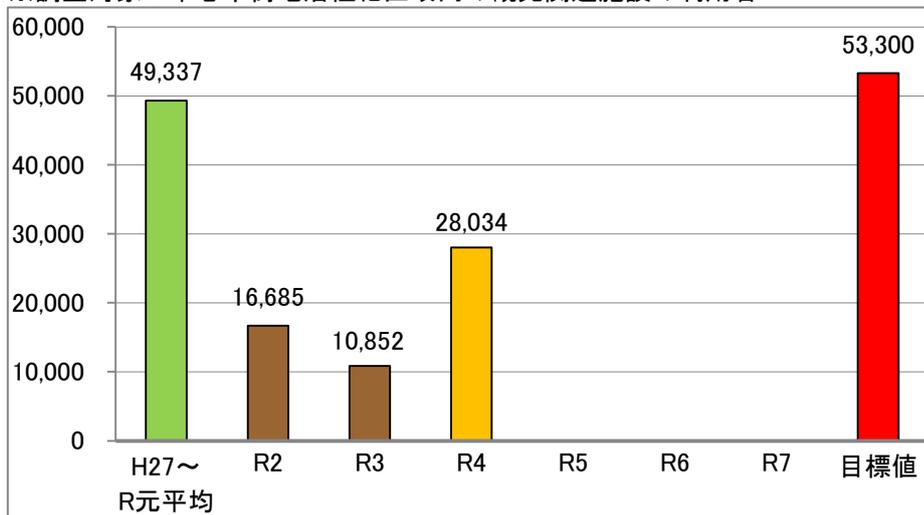
●調査結果と分析

※調査方法：観光統計

※調査月：令和4年1月~令和4年12月

※調査主体：伊勢市

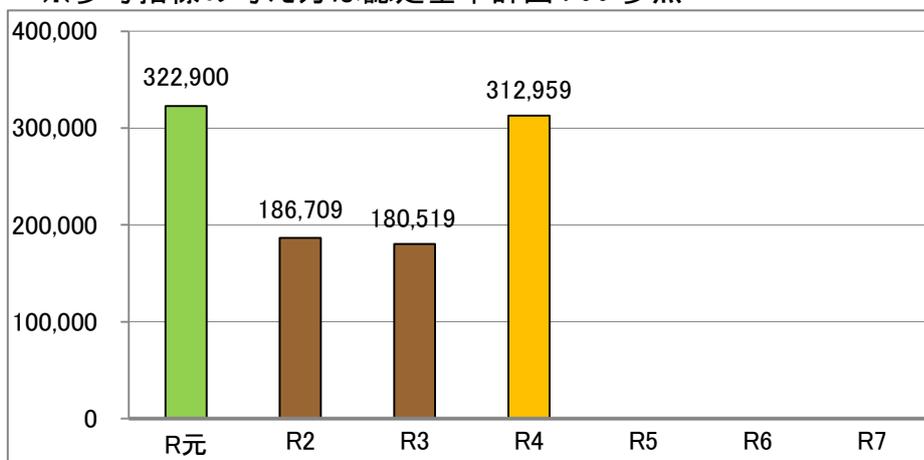
※調査対象：中心市街地活性化区域内の観光関連施設の利用者



| 年度 | (人) |
|---------------------|--------|
| H27~ R元 (基準値) | 49,337 |
| R2 | 16,685 |
| R3 | 10,852 |
| R4 (最新値) | 28,034 |
| R7 (目標値) | 53,300 |

【参考指標】中心市街地内宿泊施設の宿泊者数

※参考指標の考え方は認定基本計画 P90 参照



| 年度 | (人) |
|----|---------|
| R1 | 322,900 |
| R2 | 186,709 |
| R3 | 180,519 |
| R4 | 312,959 |

※調査方法：宿泊施設へ聞き取り

※調査月：令和5年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地活性化区域

〈分析内容〉

新型コロナウイルス感染症の影響により、目標指標の一つの要素である「お伊勢さん観光案内人」事業が、令和3年に引き続き、一部活動休止になったことが大きく影響し、基準値を下回る結果となった。

しかしながら、伊勢神宮（内宮・外宮）参拝者数が令和3年の 3,827,451 人に対して、令和4年は 6,037,417 人であり、新型コロナウイルス感染症の影響は受けつつも、観光客数は徐々に回復している状況である。また、「お伊勢さんマラソン」などの一部の事業では、規模を縮小しながら実施することができた。

参考指標である中心市街地内宿泊施設の宿泊者数は、基準値を下回っているものの、令和3年度から大きく数字を伸ばしている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 伊勢神宮奉納全国花火大会（伊勢神宮奉納全国花火大会委員会）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 昭和 28 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 全国各地から選抜された花火師たちが神宮に奉納し、日頃の研鑽の成果を神都伊勢の夜空に放陽する「伊勢神宮奉納全国花火大会」を開催する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 令和4年度大会については、新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、開催中止となった。 |
| 事業の今後について | 令和5年度大会については、令和5年7月15日に開催予定。 |

②. お伊勢さんマラソン（お伊勢さんマラソン実行委員会）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 昭和 57 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 伊勢市出身でアテネ五輪女子マラソン金メダリストの野口みずき氏を大会長に迎えて「野口みずき杯中日三重お伊勢さんマラソン」を開催する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 令和4年度については、飲食を制限するなど、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、3年ぶりに大会を開催した。 |
| 事業の今後について | 大会宿泊プラン利用者における中心市街地エリアへの宿泊や飲食利用等を促し、中心市街地のにぎわい創出を図り観光消費を上げていく。 |

③. 駅前等イルミネーション事業（伊勢市）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成 23 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 伊勢市の玄関口にあたる伊勢市駅と宇治山田駅前広場及び伊勢市駅前商店街にイルミネーションによる灯りの演出をする。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 伊勢市駅と宇治山田駅前、伊勢市駅前商店街にイルミネーションを装飾し、中心市街地の夜の魅力と周遊性を高めるための空間を演出した。 |
| 事業の今後について | イルミネーションによる灯りの演出により中心市街地エリアにおける夜の魅力創出を図り、飲食店等の周遊利用等を促して観光消費を上げていく。 |

④. 公共交通機関とのタイアップキャンペーン事業【再掲】（伊勢市）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成 26 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 公共交通機関とタイアップし、旅行商品と連動させたポスター等を作成し、主要駅のポスター枠やデジタルサイネージ等に掲出する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 東海旅客鉄道とのタイアップによる東京駅等でのポスター展開について、上期（4 月～9 月）は 4 月～6 月に、下期（10 月～3 月）は 10 月から 1 月末まで掲出した。また、新型コロナウイルス感染症の影響があったが、旅行需要が低下していた令和 3 年度に比べ、全国旅行支援等の影響もあり、連動する旅行商品については、上期 2,437 件、下期 5,942 件（3 月末現在）の販売実績があり、市内において特典のクーポン引換実績も、上期 762 件、下期 2,619 件（3 月末現在）と増加している。 |
| 事業の今後について | 令和 5 年度上期（4 月～9 月）事業は調整済みで、継続して事業を推進していくとともに、下期（10 月～3 月）についても事業継続に向け調整する予定である。 |

⑤. 着地型旅行商品造成事業【再掲】（伊勢市）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成 17 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 何度も伊勢に来ていただく動機付けとなるような伊勢の魅力を盛り込み、多様化する観光客のニーズにも対応した、事業企画、旅行商品造成及びその販売促進を行う。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、旅行需要が低下していたが、それも徐々に回復傾向となっており、個人旅行と比較して団体旅行の需要も高まっている。また、全国旅行支援等の影響もあり、旅行商品の販売実績も 18,658 件（3 月末現在）と、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の販売実績に近づいている。 |
| 事業の今後について | 令和 5 年度事業は調整済みのため、継続して事業を推進するとともに、クーポン内容のブラッシュアップや SNS を活用した販売促進も検討する。 |

⑥. ナイトタイムエコノミー推進事業（伊勢市観光協会）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 令和 3 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 夜間の地域経済を振興し、本計画地域において飲食業など夜間営業を行う業種へ新たな需要を喚起する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 令和 4 年度は新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、事業を行わなかった。 |
| 事業の今後について | 令和 5 年度は以前に作成した「夜の飲食店マップ」の内容の見直しを行い再リリースする予定である。 |

⑦. 文化資源保存活用事業【再掲】（伊勢市）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成 19 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 「伊勢市全市博物館構想」に基づき、市全体を大きな博物館としてとらえ、全域に広がる博物館や自然・文化資産などを相互に連携させて有効活用を図る。また、整備予定の郷土資料館を拠点として、博物館施設の企画展示や催し物情報、季節に応じた見どころなどを情報発信する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 「伊勢まるごと博物館スタンプラリー」は市内外の博物館施設等にパンフレットを設置し、参加を案内している。 「夏休み博物館イベント」は複数の施設で子ども対象の企画を催し、500 人を超える参加があった。 |
| 事業の今後について | 各博物館施設において、市民等に関心の高い催しの企画や、子どもの施設利用を促す企画等、来館者の増加につながる取組を進めていく。 |

⑧. 観光客への情報提供事業（伊勢市）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成 5 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 「外国人観光客案内所」の認定を受けた観光案内所を年間 365 日開設し、観光客への適時適切な観光情報の提供を行う。中心市街地内にある外宮界隈の様々なお店で特典が受けられるクーポンの販売や、旅行商品のノベルティ交換の請負、レンタサイクルの貸し出し等を行う。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 窓口案内件数：109,096 件（令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月） 新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、窓口案内、パンフレット配布、電話問い合わせ等、市内を訪れる観光客に対して案内サービス等の観光情報の提供を行っている。 |
| 事業の今後について | リモート案内システムや非接触型デジタルサイネージなど、新しい生活様式に対応した案内機能の強化や市内を訪れる観光客に対して新たなニーズに合わせた観光情報の提供を行い、中心市街地活性化を図っていく。 |

⑨. レンタサイクル事業（伊勢市観光協会）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 昭和 50 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 公共交通での利便性が悪い中心市街地のエリアへの観光客やビジネス客の手軽な交通手段として、レンタサイクルを提供する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | OTA ではじゃらん、アソビューにて継続販売を行っている。じゃらんでは伊勢市駅手荷物預かり所の電動アシスト付自転車が好調。五十鈴川駅(オレンジカフェウッド)の稼働率が低いため委託事業と稼働率向上の検討を行う。 |
| 事業の今後について | レンタサイクル利用者の更なる利便増進を図るため、シェアサイクルの検討を行う。現在シェアサイクル事業者から資料等を取り寄せて検討を行っている。 |

⑩. まちなか案内事業【再掲】（伊勢商工会議所ほか）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成 28 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | お伊勢さん観光案内人(商工会議所事業)、お伊勢さんまち歩きクーポン(まちづくり会社)等、地元住民から観光客まで、まちなかを案内するサービスを提供する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 「お伊勢さん観光案内人」事業は、一部活動を制限（原則として内宮のみ）して再開しているが、伊勢を訪れる観光客数は回復基調にあるもののまだまだ少なく、利用客数は両宮案内を行っていた、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前と比べて 50%以下に落ち込んでいる。また、デジタル化された「お伊勢さんまち歩きクーポン」は、三重県のキャンペーンによって利用客数は一時増加したものの、紙媒体であった令和 3 年度のクーポンと比べると約 30%の利用にとどまった。 |
| 事業の今後について | 新型コロナウイルスへの社会の対応の変化に応じ、「お伊勢さん観光案内人」事業の活動を段階的に再開していく。また、「お伊勢さんまち歩きクーポン」については、観光客のみを対象とした商品からの脱却を図るため、対象店舗の拡大を計画している。 |

⑪. 観光客受入推進事業（伊勢市）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成 27 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 伊勢市が、伊勢地域観光交通対策協議会及び三重交通と協働で、パーク&バスライド利用者を対象に、外宮前-内宮前間の路線バス無料利用券を配布する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等により外宮前-内宮前間の路線バス無料利用券の配布事業は実施しなかった。 |
| 事業の今後について | アフターコロナにおける観光客の動向を注視し、内宮エリアに過大に集中するパーク&バスライドの利用者の中心市街地への誘導が有効であると予見される場合、関係者、関係施策との調整を行った上で、実施する。 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和 3 年度から引き続いて、デジタルサイネージを活用した非接触型案内サービス、観光地混雑状況の情報提供等の with コロナ時代の新しい生活スタイルに対応した施策を行うことができ、令和 4 年度は、規模を縮小しながら一部の事業を再開できたが、観光関連施設等の利用者数について、基準値を大幅に下回る結果となった。新型コロナウイルス感染症の影響による「お伊勢さん観光案内人事業」の一部活動休止が原因として考えられるが、観光客数が徐々に回復していることから、関連事業を継続して実施し、観光客を中心市街地に呼び込むことで、目標達成を目指していく。